

2014年9月11日(木曜日)の静岡新聞に 弊社社長の対談が紹介されました。

平成26年(2014年)9月11日(木曜日)

責争

戸戸

業行

屋取

「パンで社会に恩返し」

「静新21世紀ビジネス塾」秋元社長が事業紹介

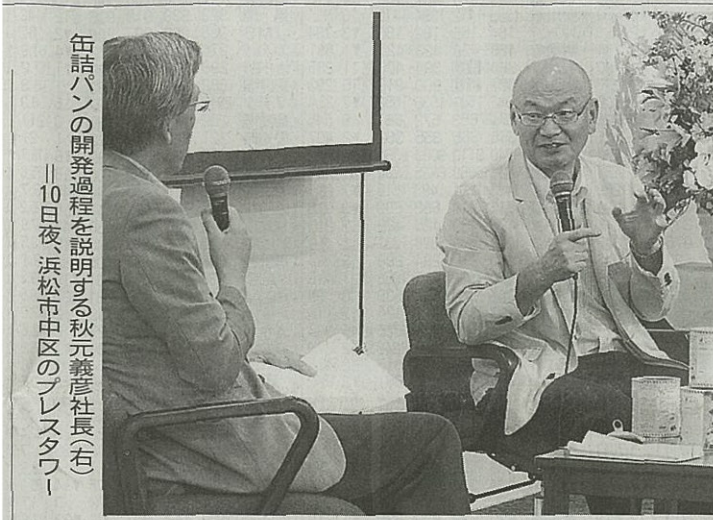
「静新21世紀ビジネス塾」の本年度第3回講座(静岡新聞社・静岡放送主催)が10日、浜松市中区のプレスタワーで開かれた。パン製造販売「パン・アキモト」(栃木県那須塩原市)の秋元義彦社長が法政大学院の坂本光司教授との対談を通じて、「パンで社会に恩返しを」と日ごろの取り組みを紹介した。同

社の「看板商品」は、柔らかさを保ったまま3年間保存できる備蓄用缶詰パン。1995年の阪神淡路大震災で被災者の要望を受けて

開発に着手し、無菌状態や安全性、コスト面の課題を乗り越えるために実験を重ねた過程を振り返った。消費期限1年前に購

入者から缶詰パンを回収し、途上国に寄贈する「救世鳥プロジェクト」も説明。自動車の下取り回収がヒントになったと明かし、「備蓄を目的にしたパンだが、職人としては食べてもらいたい気持ちが強かった」と話した。

外国人研修生の育成にも力を注ぐなど社会や海外に目を向ける秋元氏。その原動力について「いろいろな人の支えが本当にありがたいと感謝している。自分分はパン屋のおやじなので、パンを通じて世の中にお返しをしたい」と強調した。



缶詰パンの開発過程を説明する秋元義彦社長(右)
10日夜、浜松市中区のプレスタワー